

講義レジュメ

講師 菅谷 博
期 日 10月9日

内容・テーマ

茨城県自然博物館の教育普及事業

ミュージアムパーク茨城県自然博物館は、「茨城の風土に根ざした自然に関する総合的な社会教育機関」として平成6年に開館しました。開館10周年にあたる平成16年度には、その後の10年を見据えた基本的な枠組みとしての長期計画「進化基本計画」を策定し、「自然と共生し、市民と協働する博物館」を目指しました。

平成26年の開館20周年には、「進化基本計画」の枠組みは継承しながらも、急速に変化している博物館を取り巻く環境の中で、時代に対応できる運営方針として、この先5年間を見据えた「中期計画2015」を策定し、計画の柱として「地域に根ざした博物館」を重点項目にかかげました。

今回は、このような状況の中で、当館が20年余にわたって取り組んできた教育普及活動を振り返り、地域との連携、市民との協働にかかる取り組みについて、具体的な例をいくつか紹介するものであります。

県教育研修センターや筑波大学との連携による教員対象の研修講座の開催、学校団体には見学のみの利用にとどまらず、博物館で授業を展開してもらうための仕組みづくり、地域の指導者を育成するための連続講座「シニア向け自然大学」の開講などは、数年前から取り組んでいる新しい事業です。

ジュニア学芸員育成事業は、中高生が自然に関する課題を探究する活動に主体的に取り組む、学校教育だけでは得られない経験を培うことを目的にしています。平成13年より開始したこの事業で、これまでに約200名のジュニア学芸員が育っています。

ボランティア育成支援事業は、開館と同時にスタートしました。ボランティアは博物館のかけがえのないパートナーであり、市民と協働する博物館の具現化する最も重要な事業と位置づけています。さらに、中期計画2015で打ち出した「地域に根ざした博物館」では、ボランティアは地域と博物館をつなぐ架け橋的な存在です。当館のボランティア活動は、発足当時から自主的な活動とチーム制を取り入れ、毎年100名以上が活動しています。

これらの事業については、長年取り組んできたもの、新しく開始したものにかかわらず、評価と反省を積み重ね、節目には見直しを行い、今後とも時代に即した活動を展開していきたいと考えています。